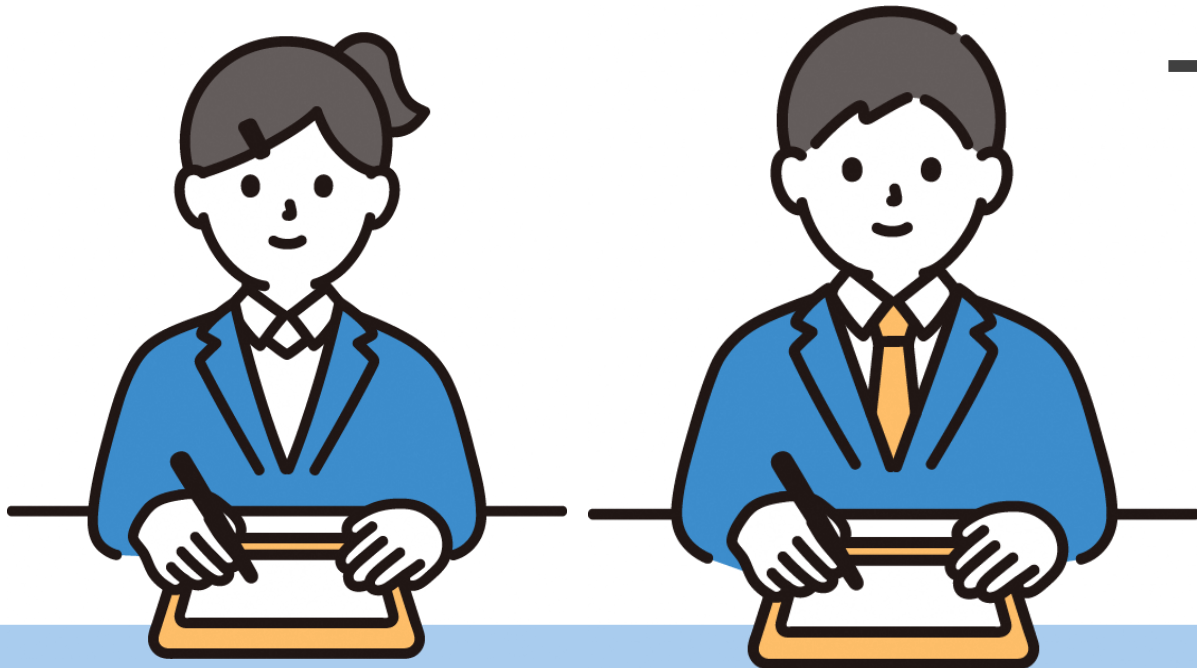
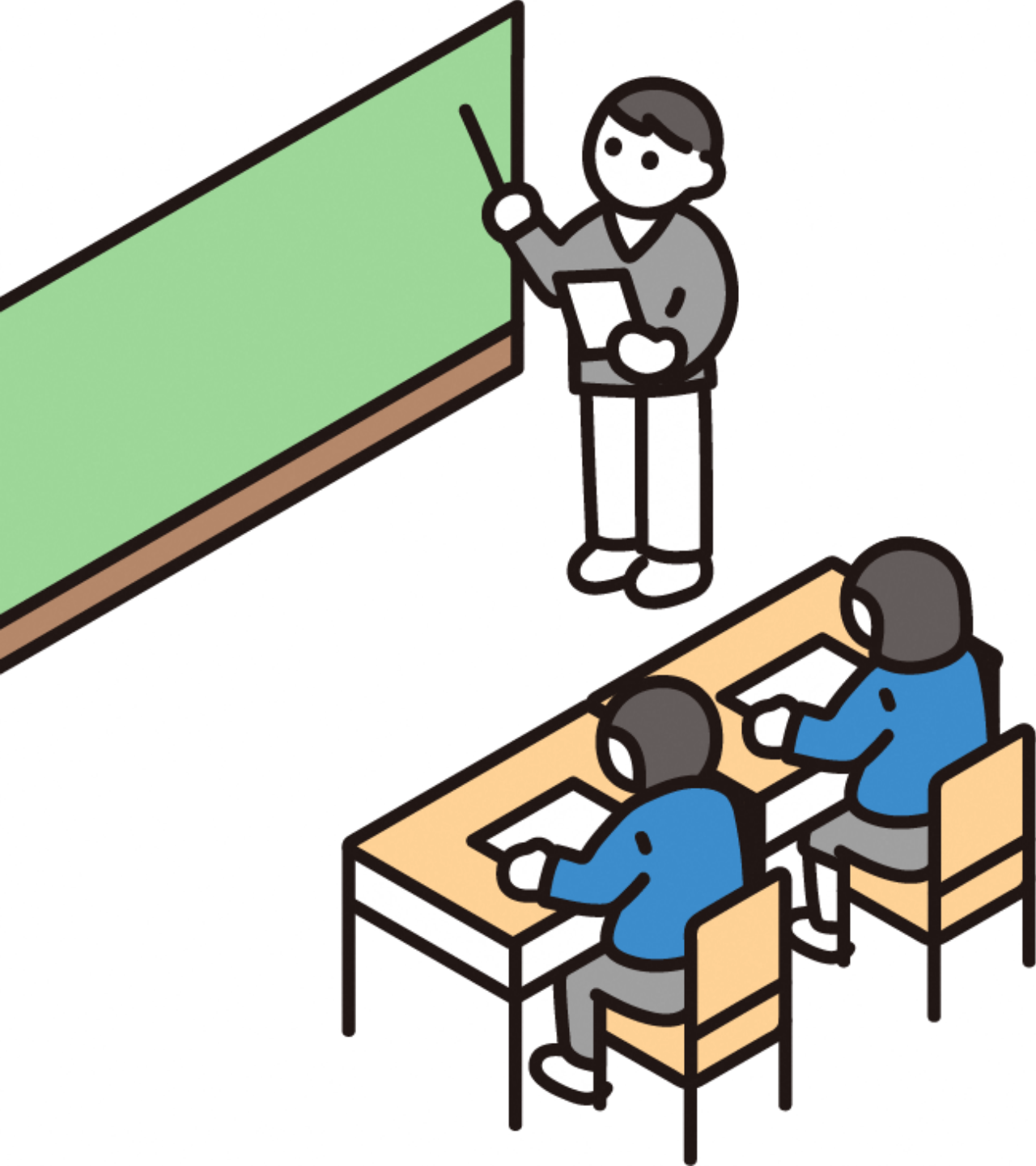


伝えるから、続けるへ

—タブレットで促す中高生
の交通安全習慣化—

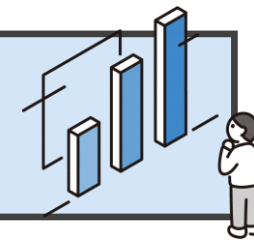


龍谷大学浜井ゼミA班



なぜ**中高生**を
ターゲットに
したのか

現状分析 統計

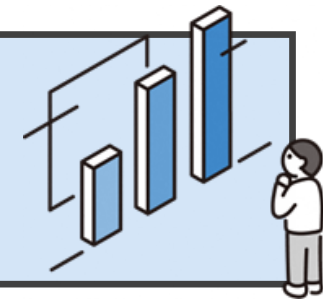


自転車運転中負傷者数				
		令和4年	令和5年	令和6年
中学生	1年	17	13	13
	2年	11	10	16
	3年	10	7	7
	小計	38	30	36
高校生	1年	34	41	38
	2年	35	29	28
	3年	12	26	23
	小計	81	96	89
	合計	119	126	125

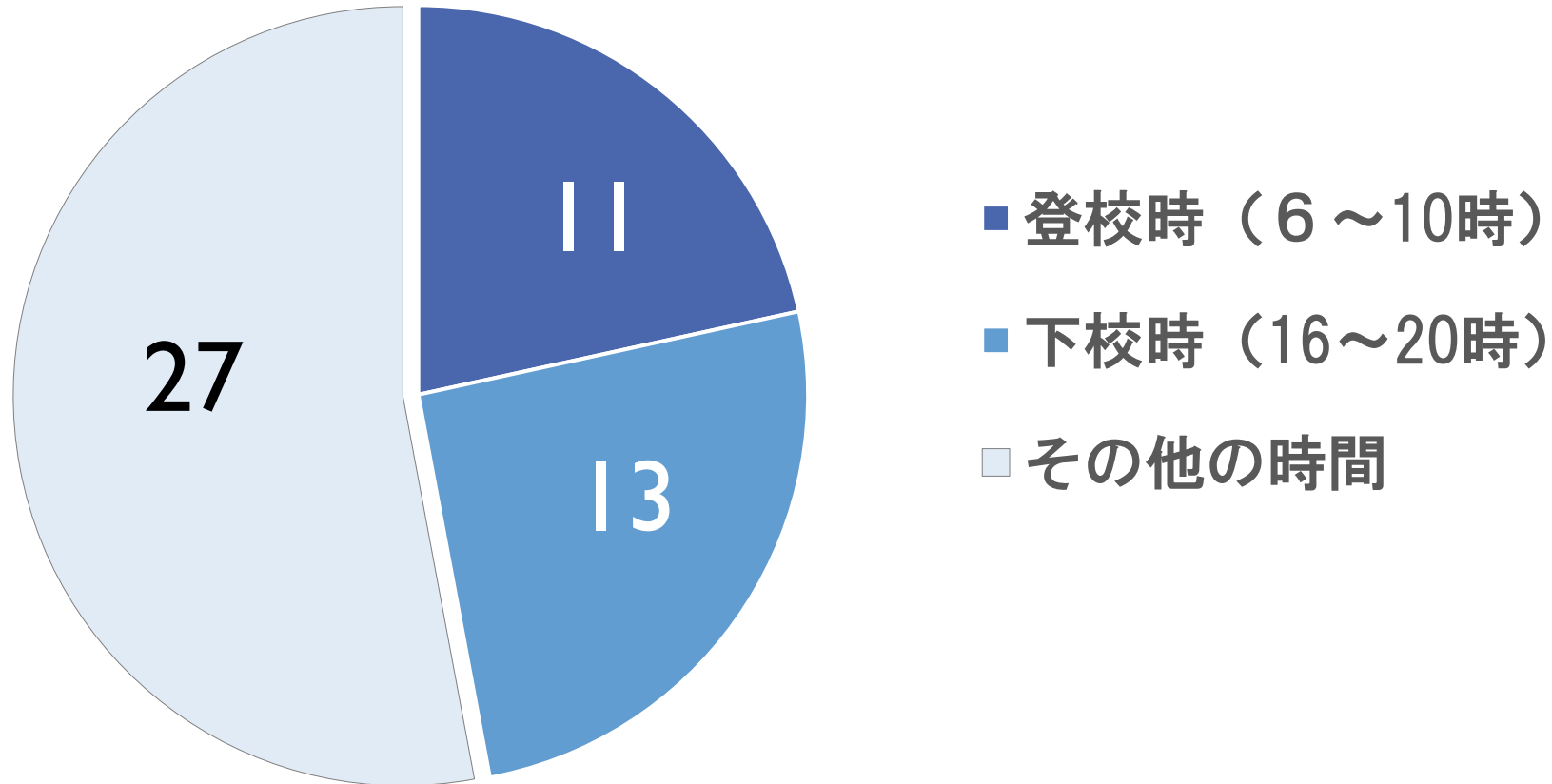
約3倍

警察提供資料、京都府警察本部「京都府内の交通事故〈令和6年中〉」

現状分析 統計



死亡事故の時間帯別発生件数（全年齢）



アンケート調査

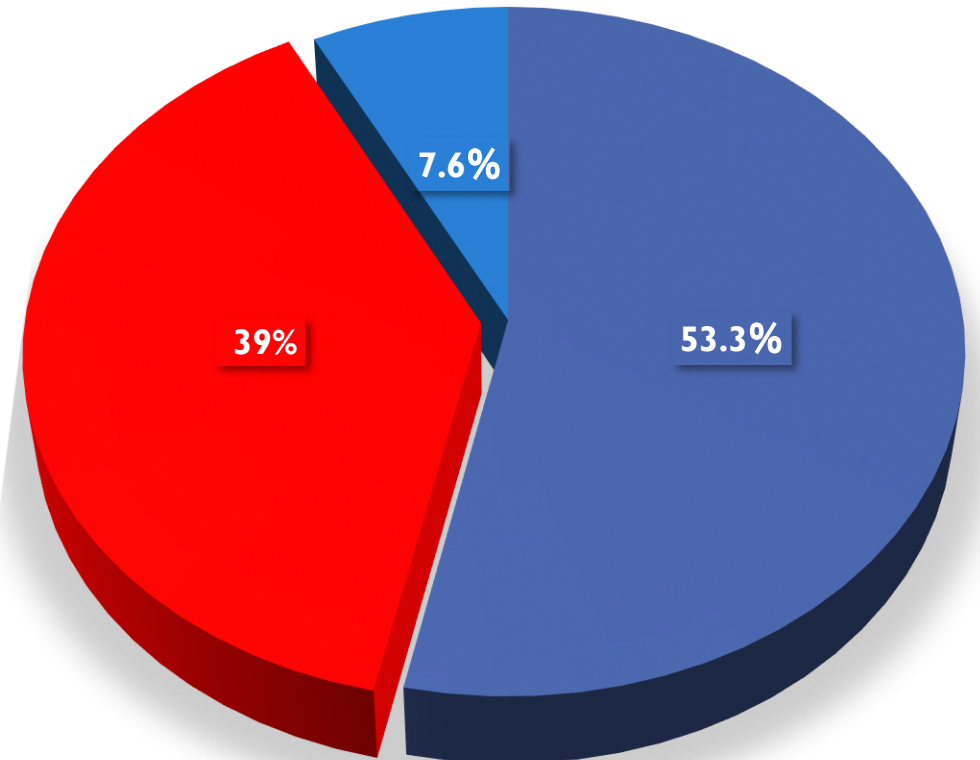


☆大学生約100人に交通安全教育についてアンケートを実施

中学校・高等学校在学中に
『交通安全に関する教育、取り組み』
に参加しましたか？

調査概要：回答者数105名（女性59%、男性40%）うち、
運転免許保有率は39%

- ・ はい = 53.3%
- ・ 覚えていない = 39%
- ・ いいえ = 7.6%

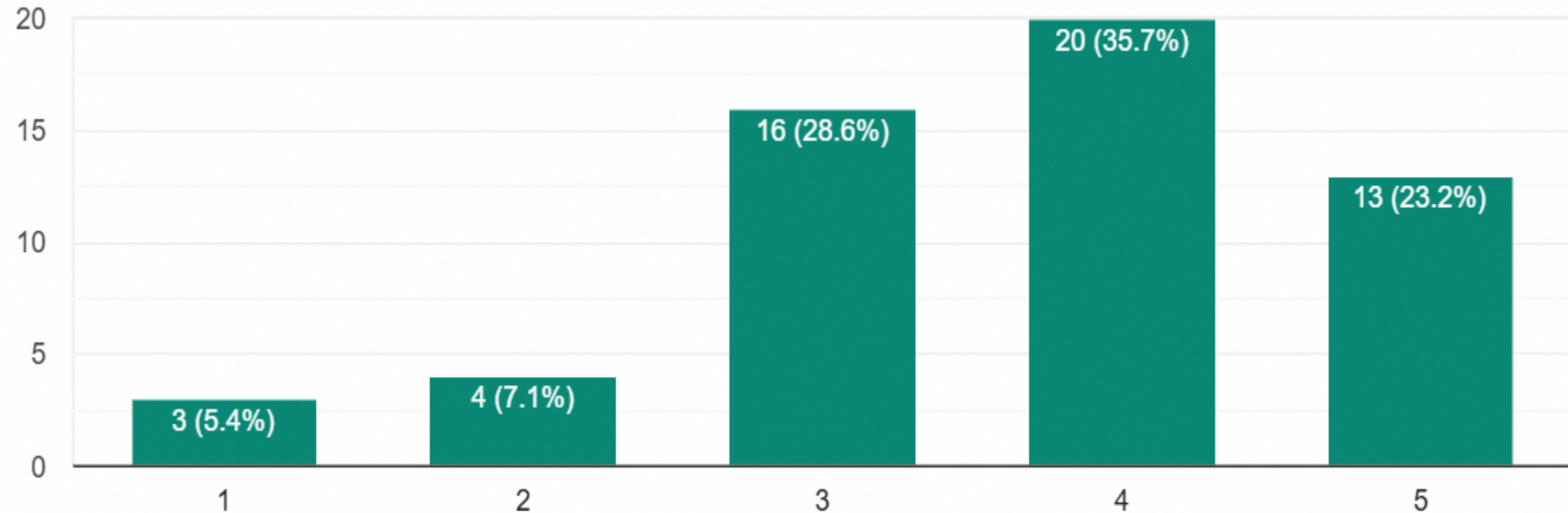


「はい」と答えた方に聞きました

『交通安全に関する教育、取り組み』を、
現在どう思っているか。



※役立たなかった(1)から役に立った(5)まで五段階評価

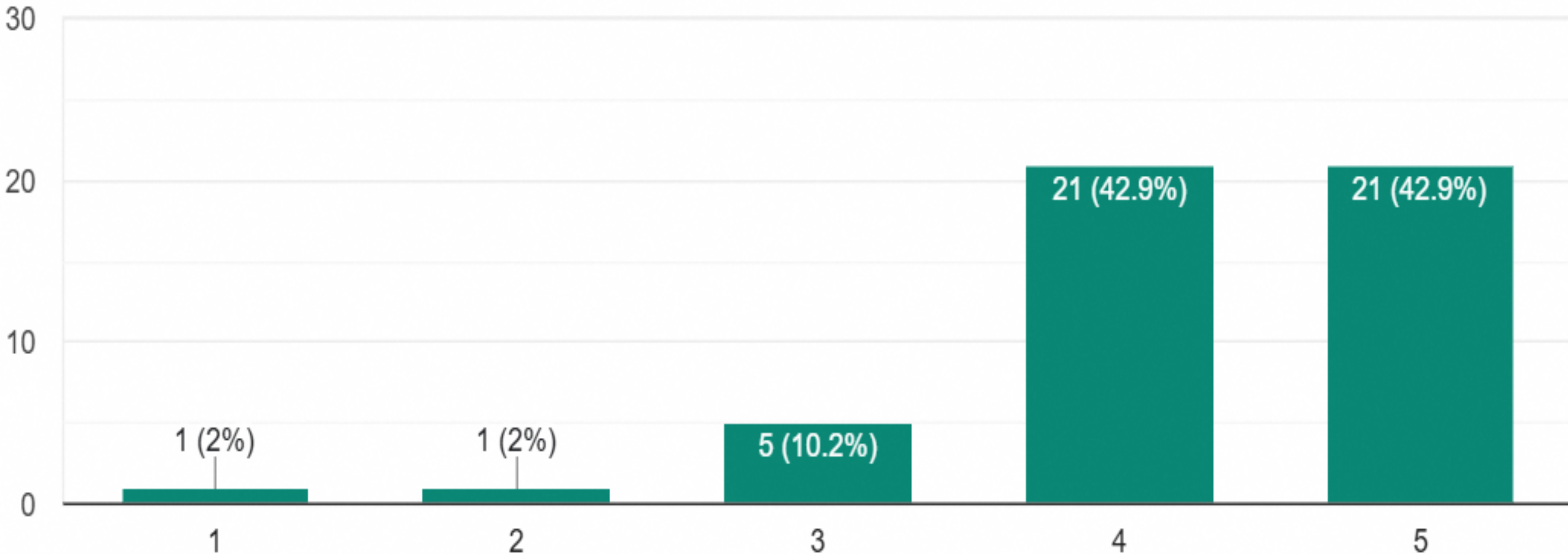


「いいえ、覚えていない」と答えた方に聞きました

『交通安全に関する教育、取り組み』は、
必要だったか。



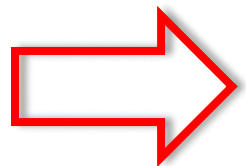
※不要だった(1)から必要だった(5)まで五段階評価



交通安全教育の必要性は広く認識されている。
にもかかわらず、大学生になると覚えていない
現在の実施状況には課題があるのではないか・・・

どのような交通安全教育を受けたか？

- ・ アクション俳優が交通事故を実演し、危険性を訴えるイベント
- ・ 警察の方が来られ交通安全のビデオを見た。
- ・ 警察の交通課の方が中学校に来て、交通安全のルールや気をつけた方が良いことを講演して下さった。
- ・ 自転車の交通安全教室（グラウンドで一旦停止などの交通ルールを実践）



一回きりで終わってしまう内容がほとんど！？

目的

① 中高生が交通安全を
「自分ごと」
として考える習慣をつくる。



② 「帰りの会」×「タブレット」
で毎日思い出す仕組みを作る。



習慣化の仕組み

習慣を「くっつける」ことで自然に継続ができる
(ハビット・スタッキング効果※¹)

既存の習慣：「帰りの会」

新しい習慣：「数分の交通安全学習」

→ 「1日の締めくくり＝安全確認の時間」として定着

※1：既存の習慣に新しい行動を積み重ねることで、新しい習慣を無理なく定着させる方法。

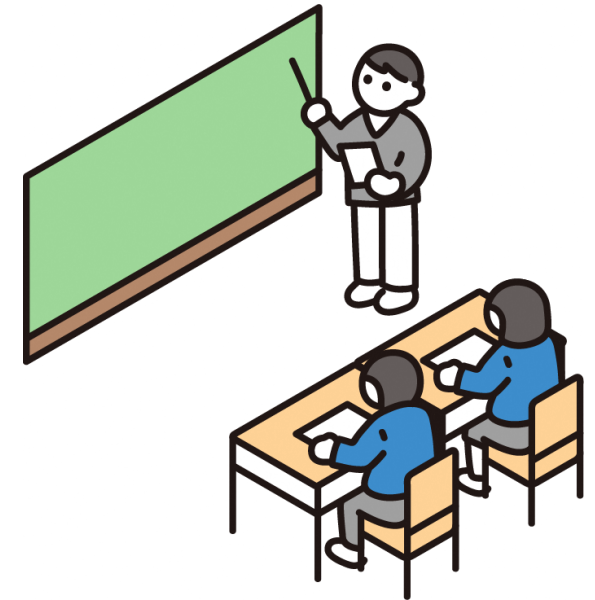
方法 帰りの会

「帰りの会」でタブレットを使用し、5分程度の学びの場を設ける。

〈具体例〉

- ①現状を知る
- ②交通ルールクイズ
- ③実際の事故事例を紹介（動画など）

→継続して実施することで、“習慣化”を促す。



●例①：現状を知る

- 先週の事故の件数や交通ルールについての情報提供。

例) 「令和5年からの自転車の法改正」

例) 「事故の多い道路・交通状況」

例) 「一定期間の事故件数」



→ 普段から交通情報に触れることで自分ごととして捉えることができる。

+α 天候に応じて交通安全ワンポイントを実施する。



◎例②：交通ルールクイズ


質問 回答 設定 合計点: 0

画像で示す行為は違反にあたるのか。
○か×で答えなさい。

☑ チェックボックス

B I U ↻ ✖

⋮



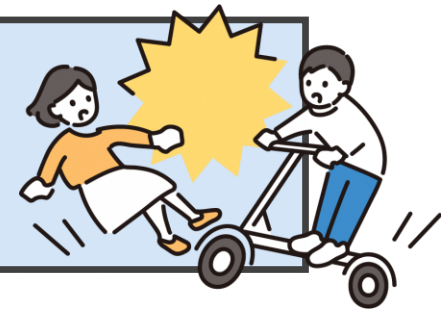
○ ×

選択肢を追加 または 「その他」を追加

⊕
📄
Tt
🖼️
▶️
☰

* Googleフォームで作成

◎例③：危険予測



- ・危険予知トレーニング
- ・動画を見ながら生徒に考えてもらう。
 - 考えた内容を発表してもらう
- 自ら見て、考えて、伝えることで、
実際の行動決定につながる

問題 片側1車線の道路を渡ろうとしています
このとき、あなたは何に注意しますか？ 2:52

【危険予知トレーニング】歩行者編 #01～
道路を横断する際の注意（高齢者の目…
JAF Channel · 10万 回視聴 · 8 年前

<https://www.youtube.com/watch?v=o2kZernjPh4>

期待される効果

①安全への自然な注意力が高まる（プライミング効果※²）

「帰りの会」での交通安全教育

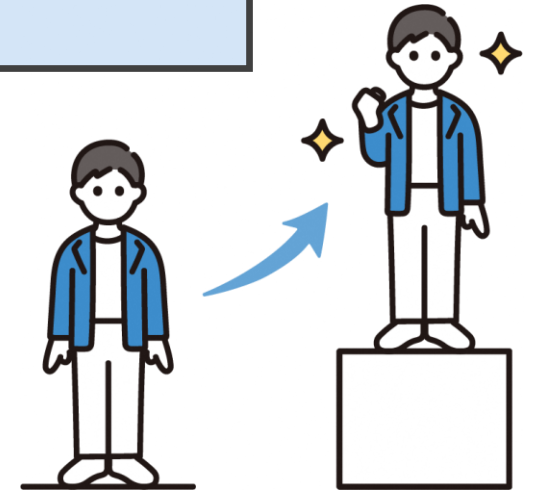
→安全行動のイメージに触れることで、

下校時の注意行動・安全意識を無意識に促す効果が期待される。

※2：直前に触れた情報や刺激がその後の行動・判断に無意識のうちに影響を与える心理学的仕組み

期待される効果

②集中力の持続と学習効率の最適化



「短時間×高頻度」の学習

→「長時間」の学習より、「短時間」の学習の方が
学習の定着・集中力に対して効果がある※3

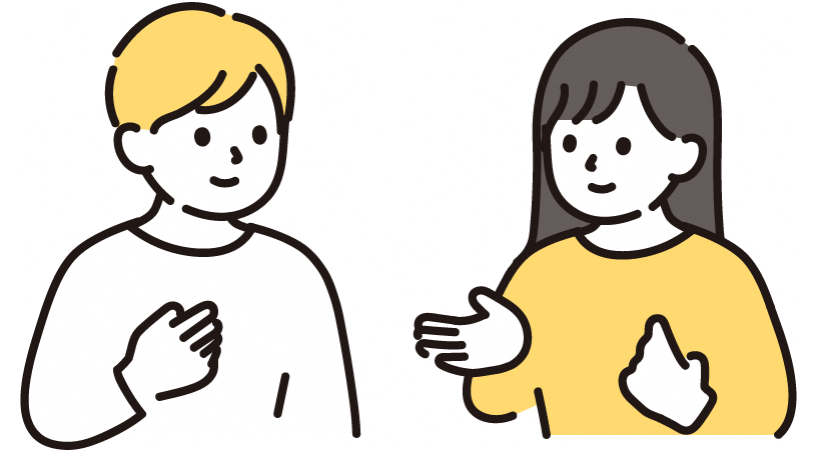
※3：出典「集中力の維持と長期的な学習効果につながる方法（東京大学、池谷裕二教授の見解）」

期待される効果

③ 画像や動画・クイズなどを用いることで、視覚的・参加的な学びとなり、中高生が自ら考える機会を得る。

→マルチメディア要素を組み合わせることで、

「見て、聞いて、考える」 学習体験を継続できる。



今後の展望

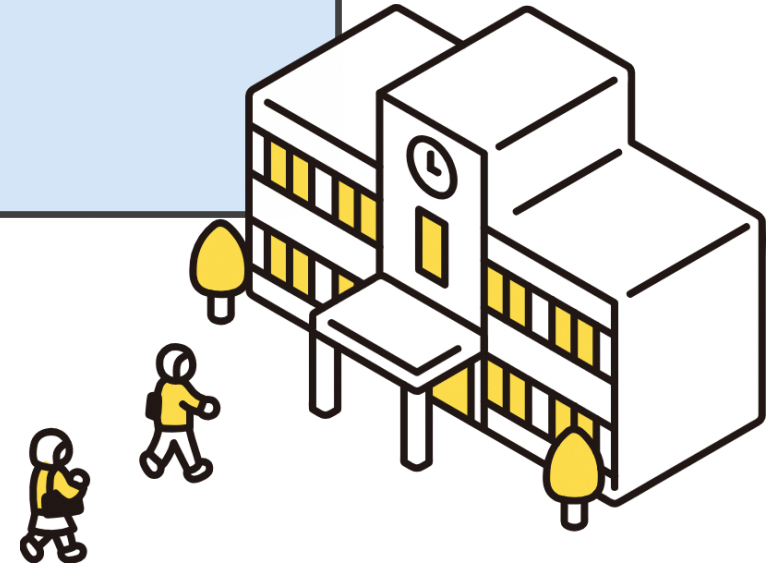
①実際の学校での運用について

- ・対象は中学、高校の3年生
- ・調査期間「4月から9月までの半年間」
- ・短い期間に習慣化を目的とした集中実施
(情報提供・クイズをメインとすることで教員の負担を抑える。)
- ・集中実施後は週2～3回に減らし継続する

②卒業後のアンケート調査

(交通安全に関する教育を覚えていると答えられる人が増える)

③中高生交通事故件数の減少



参考文献

- 京都府警察本部「京都府内の交通事故〈令和6年中〉」
- S・Jスコット『Habit Stacking: 97 Small Life Changes That Take Five Minutes or Less』, 2018
- 「集中力の維持と長期的な学習効果につながる方法（東京大学、池谷裕二教授の見解）」
<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000562.000000120.html>
- 太田信夫『長期記憶におけるプライミング--驚くべき潜在記憶(implicit memory)』, 1988
- 犯罪・交通事故情報マップ【京都府警】 (https://kyoto-fukei.geocloud.jp/public/map.html?jb_layouttype=easy_2block&jb_curnodename=%E4%B8%80%E6%99%82%E4%BD%9C%E5%9B%B3%E3%83%AC%E3%82%A4%E3%83%A4&jb_activepanel=ifx_parts_pointmap)